参考資料

令和元年度 第１回「みえ現場 de 県議会」
～水産業の振興～ 実施概要

１　**日時・場所**　令和元年１１月７日（木）１３時３０分～１５時３０分
尾鷲市早田コミュニティセンター ２階　大広間

２　**テ　ー　マ**　「水産業の振興」

三重県は、変化に富んだ海域・地勢のもと、それぞれの特徴を生かした多様な水産業が営まれている全国でも有数の水産県ですが、漁獲量や漁業就業者数の減少など、水産業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。

そこで、三重県議会では、地元密着の長期型研修で県内外の若者を漁師として育て、漁村の若返りを実現した、尾鷲市早田（はいだ）町の「早田漁師塾の取り組みについて現場視察を行うとともに、早田漁師塾の関係者の方々や漁業の振興に関心のある一般公募の県民の方と、水産業の現状や今後の課題等について意見交換を行い、今後の議会での議論に反映させていきます。

３　**参 加 者 等**

○早田漁師塾の関係者の方　５人

・株式会社早田大敷　代表取締役　岩本 芳和 氏
　　漁撈長　中井 恭佑 氏
　　吉田 元治 氏
　　浦　和弘 氏
・尾鷲市 水産農林課　主査　竹内 大介 氏

○一般公募の方（漁業の振興に関心のある方）　３人

・尾鷲市地域おこし協力隊　大山 道臣 氏
・株式会社ディーグリーン
　mogcook（モグック）事業部　立花 圭　氏
・ふるさと三重コンサルティング　代表、
　ふるさと四日市検定実行委員会　代表　廣田 耕一 氏

○県議会議員（下線は広聴広報会議委員）　８人

中嶋年規 議長、<u>北川裕之 座長（副議長）</u>、<u>濱井初男 委員</u>、<u>中瀬古初美 委員</u>、<u>喜田健児 委員</u>、<u>山崎博 委員</u>、<u>稲森稔尚 委員</u>、谷川孝栄 議員（環境生活農林水産常任委員長）

○傍聴者　１２人

４　プログラム

○現場視察（早田漁港）

１　開会あいさつ

２　早田漁港について説明

○意見交換（早田コミュニティセンター）

１　参加者の自己紹介

２　参加者の活動紹介

３　意見交換

４　閉会あいさつ

５　主な意見等

（現状・課題等）

① 早田漁師塾は、ホームページの情報量が豊富。また、期間も他の漁師塾と比べて１か月と長く、実際に住んでみたことで、どういった町なのかもわかった。

② 漁師塾というところであれば、自分でも足を踏み入れられるのではないかと思って応募した。また、ホームページにはいいことだけでなく、不便なことや、先輩からの言葉など、聞きたいことが全部書かれていて、とても参考になった。

③ 早田町は、大敷の力、若い人の力は切っても切り離せないものになっている。普段の生活の中で、年配の方の荷物を持ってあげたり、町の行事に参加したりしている様子はとても良いことで、そういったことはどんどん紹介をしていきたい。

④ 昔から「漁師で飯は食えない」と言われてきた。これまでの流れを変えるということはなかなか難しいところもあるが、若い人も安心して子育てできるような給与体系にしていきたい。

⑤ 水揚げも魚も減ってきているが、それでも漁業は続けていかなければならない。また、大型定置は各地区に残っていないと、地区はどんどん寂れていく。

⑥ 早田町での暮らしは、市場がなくなり、あれもなくなりこれもなくなりで、どんどん住みにくくなってきている。よりよい生活をしようと転職してこの町に来たが、町は衰退する一方で、生活の面で不安がどんどん出てくる。

⑦ 釣りをしても、魚が少量だと市場に持っていけず、燃料費だけがかかって、ただの赤字になる。

⑧ 早田町の魚をメインに取り扱う仕事をしているが、漁の休業期である７月から１０月頃は魚がないため、その時期どうやって会社を運営していくかが課題となっている。

⑨ 町の中で魚を加工したい、町の女性が作ったお弁当を町の外でも販売したいと思っても、町には小さな軽トラックの保冷車しかなく、設備の面で保健所の許可がおりない。また、鮮魚を都市部で販売する際、魚をさばいてほしい

という需要が多くあるが、移動販売だと魚をさばく場所の免許がなかなかとれない。

⑩ 地元の魚を使った離乳食の販売をしているが、消費者の声を聞くと、養殖へのイメージがよくないと感じる。

（提案・要望・今後の展望等）

① 県の支援事業は、人件費としては使えないというものが多い気がするが、実際に町を動かそうとすると、若い人の力が必要になるし、そういった人が１人でも入るだけで、町は動いていくと思う。もっと使い勝手がよくなっていけば、地区は動いていくのではないか。

② 今はいろいろな支援事業があると思うが、そういったものは残していただきたい。

③ 平成１１年から尾鷲市の漁業体験教室を実施してきており、粘り強く続けてきたことで、早田大敷の方々のような若い人が今もいてくれている。財政状況が厳しい中ではあるが、細々とでも入り口から就業に至るまでの支援だけはずっと続けていきたいので、事業（漁師塾）の継続をお願いしたい。

④ 給与面や雇用体制は、改革を行っているところなので、皆さん、ぜひ注視していただいて、応援していただきたい。

⑤ 早田地区復活の経験を生かして、他の漁村の繁栄を手伝ったり、違った定置網漁業の改善のアドバイスなどもしたりしていきたい。

⑥ これからは水産資源の管理が非常に大事になってくる。早田大敷では、若い漁師達も資源管理の大切さをわかっており、今年もブリの稚魚を船上で分けて逃がしたりしていて、その様子をFacebookなどでも発信している。こういった取り組みがもっと広がっていけばいいと思う。

⑦ 巻き網漁と比べると、定置網漁は資源管理が行える。巻き網漁の方にも、もう少し資源管理を考えた漁の仕方を検討してほしい。

⑧ 移動販売車での魚さばきなどについて、保健所は、限界集落ということを考慮した規制緩和などを考えていただきたい。

⑨ 魚の価値をあげていかないと、最終的に魚を獲る人の生活も成り立っていかないし、加工する人の生活も成り立っていかない。加工する人も高齢化が進み、魚をさばける人が今後どんどん減っていくのではないかという危機感がある。魚に触れる文化を自分達のビジネスを通して守っていきたい。

⑩ 魚の価値向上や、魚食の振興というところに力を入れていただきたい。

⑪ 魚のイメージ大使や、ゆるキャラなどを作ってはどうか。

⑫ 三重漁連がつくった「鯛の日」をもっとＰＲしていくべき。

⑬ お魚検定を実施するなど、まずは三重県全体のことを知ってもらう機会を作ってはどうか。

⑭ 四日市では、海岸近くの散策マップを作って、ボランティアが案内したりしている。尾鷲市でも、こういったパンフレットを作ったり、ＳＮＳを活用したりしていく必要があると思う。